

洋上での人材育成教育プログラム スマートクルーズアカデミー報告

文責：企画スタッフ一同(スマートクルーズアカデミー)

■ 第22期スマートクルーズアカデミーを終えて

2024年6月12日から15日の3泊4日の日程で、「第22期のスマートクルーズアカデミー(SCA)」が、コスタクルーズ社の「コスタセレーナ」号で開催された。本記事は、今回のアカデミーにおける様々なイベントの概要や参加することの意義をまとめたものである。具体的には、スマートクルーズアカデミーの概要、学生プレゼンの概要、スポーツイベントの概要、寄港地や船内での学び、SCAの意義などについて、大学教員や関係者の方々からの寄稿を掲載している。本記事が、今回の企画の記録として残り、今後の発展に寄与すれば光栄である。文責：宮崎 毅

■ 第22期スマートクルーズアカデミーの概要

第22期のスマートクルーズアカデミーは、2023年6月に第21期が開催されて以来の1年ぶりの開催である。スマートクルーズアカデミーは、2012年から始まった、洋上におけるグローバル人材育成教育プログラムである。その目的は、クルーズを体験し、閉ざされた国際的な洋上空間で、日本・世界の社会問題の解決策を考えるとともに、寄港地の地域活性化の在り方を考えることで、これまでにない視野を持った、将来を担う高度な人材を生み出すプログラムである。その意義と成果に多くの関係者が賛同し、関係者の協力のもと、これまで継続されてきてい



舞鶴停泊中のコスタセレーナ

る。また、寄港地の団体から構成される「全国クルーズ活性化会議」における、各自治体のクルーズ誘致担当者の人材育成プログラムである「研修クルーズ」とも同時開催しており、運営側の負担を効率化しながら、最大の効果を上げる制度設計ができています。これまでの参加者は延べ700人を超え、今後もさらなる発展が期待されている。

2024年6月に開催された「第22期のスマートクルーズアカデミー」には、史上最大の130名の参加者があった。乗船地は、福岡で、その後、釜山と舞鶴を経由し、金沢で下船するという3泊4日の短いクルーズである。また、乗船地と下船地が異なるポジショニングクルーズでもある。多くの参加者が集まった理由としては、以下の二つが挙げられる。第一は、参加者は、クルーズ経験が初めての学生や関係者が多く、授業の合間、または、仕事の合間での乗船となるため、短いクルーズへの参加がしやす

かったこと、第二は、集客が厳しいポジショニングクルーズということで、乗船料金が相対的に安く設定されており、参加費用が手ごろになったこともある。

スマートクルーズアカデミーではこれまでに蓄積されたノウハウを活かして、船内での限られた時間を有効に使うプログラムがセットされている。メインの目的は、「日本・世界の社会問題の解決策を考える」こと、「寄港地の地域活性化の在り方を考える」ことを通じて、将来を担う高度な人材を生み出すことであり、プログラムには、その目的に資する発表会や交流会が織り込まれている。その上、本来のクルーズの楽しみを体験することも必要であり、その意味では、3泊4日の期間は十分ではないが、限られた制約の中で、スタッフ全員、その目的を最大限達成することを心掛けた。

今回のスマートクルーズアカデミーには、10人のスマートクルーズアカデミースタッフが乗船し、役割分担の下、プログラムの進行に当たった。事前に何度も打ち合わせを行い、船内では随時連携を取りながら、100名を超える参加者に、全てのプログラムをしっかりと体験してもらうことができた。無事にすべてのプログラムが終了された喜びに加え、全ての参加者がスマートクルーズアカデミーを通じて多くの学びを得て、この体験とともに、今後、日本社会に貢献していくことになるという期待から、スタッフ一同、大きな喜びを得ることができているというのが正直な感想である。

以下では、スマートクルーズアカデミーの実施担当者から、プレゼン大会、スポーツアクティビティ、寄港地での学び、参加する意義などについて、レポートしていただき、今後のスマートクルーズアカデミーのさらなる発展に向けた記録とした。文責：赤井伸郎

■ 学生プレゼン概要と振り返り

第22期スマートクルーズアカデミーでは、学生プレゼン大会において参加学生が取り組む課題を「クルーズ船が寄港した際の地域活性化イベントの提案」と設定し、クルーズ船が「寄港したときに行く」、当該地域の活性化に資するイベントを提案する企画とした。学生は、様々な学部所属の学部生と大学院生であり、アカデミックな多様性を考慮した。とくに、「地域活性化イベント」を国や自治体による施策、つまり「政策」に限らず、地元の企業や団体、商店街によるイベントやビジネスモデルの提案も歓迎することにして、考えてもらった。発表方法は船内におけるプレゼンテーションとし、その内容は「A:企画提案」と「B:企画を導いた準備・方法:思考プロセス、提案の根拠、チームとしての準備の工夫など、提案に至る各チームの考え方と取組」の2部構成とし、学生プレゼン大会に参加学生全員が積極的にかかわることを促した。そして、集中して作業をしてもらうため、準備期間を2週間程度に設定した。

船内での発表時は、1)チームで登壇して持ち時間5分で発表し、発表終了チームは次の発表チームへの質問を担当しても



学生プレゼンと審査委員(手前)



学生プレゼンと聴衆

らった。プレゼンの評価は、同船に「研修クルーズ」として乗船されている自治体の港湾関係者をお願いをした。「A:企画そのもの」と「B:プロセスやチーム力など」を、事前に決めた評価軸にそって評価していただき、順位を付けた。参加学生たちは、短い準備期間にもかかわらず、各チームともに、工夫を凝らした内容を提案していて、プレゼンの出来栄は平均的に良かった。提言された企画イベントの質については、特定の地域に焦点を当てた提言が多く、発表の様子も堂々としており、全体的に非常に聞きやすかった。

学生プレゼン大会の企画と運営に携わる側として、反省点も残る。参加チーム数の確認が事前に不十分であったため、当日の発表時に混乱をきたした。また、事前の説明会においては、発表当日の資料ファイルは自由(pdfでもパワーポイント型式でも何でも可)とアナウンスしたが、提出されているかどうかの確認に手間取る要因にもなり、また、発表時のPC操作についてもスムーズさを欠く原因となった。さらに、発表時間がやや長すぎたため、進行について何か工夫が必要だと感じた。これらの反省点や気付きを、次回以降のスマートクルーズアカデミーでの学生プレゼン企画に反映させていきたい。文責：倉本 直史、橋本浩幸

■ スポーツイベントの概要と振り返り

2024年6月14日の午前にはスポーツイベントを開催した。今回のスポーツイベントは、「てつなぎおに」であった。大学の枠を越えた学生間の交流が自然と生まれてくるには3泊4日という時間は少し短いかもしれないと考え、スポーツイベントのチーム分けを大学ごととせず、かつ性別もなるべく混ざるようにした。スポーツイベントを企画する段階ではバレーボールなどの球技も検討したもの、そのような球技ができるスペースを確実に確保できるかどうか不明であったことや、約90名の学生が全員参加することが難しいといったことから、「おにごっこ」の派生である「てつなぎおに」に決定した。

「てつなぎおに」は、①おににタッチされるとおにと手をつなぐ、②手をつないだ状態でおにと一緒にタッチする、③手をつないだ人数が4人に達すると2人と2人に分かれることができる、というルールのおにごっこである。合計14チームの総当たり戦とし、おににタッチされずに残った人数を各チームの点数として加算していき、その累積点によってチームの順位づけを行った。また、教員はどのチームにも属していないため、教員2名が各回における最初のおにになった。

スポーツイベントの開始直後は学生のとまどい(おそらく、「この年齢でいまさらおにごっこ?」といった類のもの)が感じられた



フォーメーション

ものの、最初におにになった教員の必死さに動かされるようにして回を重ねるにつれて学生が躍動し、非常に盛り上がったと思われる。中には、あえておにから逃げることなくじっと立って観客を装うといった頭脳プレーも見受けられた。学生たちが社会人になると、まず「良きフォロワー」としてリーダーを支えていくことが求められる。このようなイベントの中でイベントを企画した側の

意図を汲み取り、参加者自身がイベントを大きく盛り上げていくことは、「良きフォロワー」の練習とも言えるかもしれない。

今回のスポーツイベントは、上村多恵子様にスポンサーになっていただいた。大変ありがたいことに上位のチームに船内のジェラートをご馳走していただいた。ここに記して改めてお礼を申し上げたい。文責：小川顕正 加藤真也

■ 寄港地＜釜山・舞鶴＞・船内での学生の過ごし方と各グループが学んだこと

2日目の釜山寄港では、学生たちは大学ごとに分かれて自由に釜山の街を満喫する一方、教員及び自治体関係者は釜山港湾公社(BPA)との意見交換及び釜山港視察を行った。BPAから今後の開発計画について模型とともに説明を受け、進化を続けていく釜山港の姿を目の当たりにし、投資を継続することの意義を改めて実感した。

3日目の舞鶴港寄港では、舞鶴市みなと振興・国際交流課に受入れていただき、総勢130名が遊覧船、大型バス、マイクロバスで5班に分かれ、クルーズ船が着岸した舞鶴西港から東舞鶴



いざゲームスタート



集合写真

エリアを視察した。舞鶴観光ガイドボランティア「けやきの会」の皆様がガイドしていただきながら、海上自衛隊北吸係留所に停泊中の護衛艦や、五老スカイタワーから一望する美しい港と山々、赤レンガ博物館など、舞鶴の魅力に触れ、忘れ難い舞鶴寄港となった。綿密な計画と細やかなお心遣いにより、かつてない大規模の視察を実現して下さった舞鶴港関係者の皆様のご尽力には感謝の言葉もない。

船内においても、学生たちはイベント参加や船内「探検」など、思い思いにクルーズを満喫していた。外国籍のクルーがリードする、ピンゴゲーム、デッキでのサッカー、テーマナイトでのダンスパーティー等の参加型のアクティビティや、ショー鑑賞、プールなど船内施設の体験を通じて、限られた時間でありながら、クルーズならではの楽しみ方と、外国船ならではの「非日常」をしっかりと体験した濃密な3日間であった。

このような日常では得られない寄港地視察や船上経験は、学生たちが少し大きな視点で物事を考えるきっかけにもなったようである。下船後には「環境保全、観光振興、地域振興」という大きなテーマを持ちながら、持続可能な未来を築いていくことの

重要性を改めて感じた」という感想も寄せられた。文責：安武妙子、永田京子

■ 参加する意義と今後の期待

SCAに参加する意義を問われれば、「人生を豊かにする」と答える。少し言い過ぎだろうか。ただ、SCAに参加した学生からは、参加できたことへの感謝、また乗船したいという言葉が多く聞かれる。さらに、参加後数年経ってからも、SCAでの経験が話題に上る。

その理由として、クルーズの楽しさを知ったことはもちろん、船社やクルーといったキャリアに触れ、クルーズ振興といった政策や、寄港地における地域活性化のための取組への関心の高まり等、クルーズを通して様々な分野や多様な世界を知るきっかけとなったことを挙げる。また、SCAを通して出会った他大学との友人たちとの交流が下船後も続いていることもある。これらは、学生プレゼンテーションにて、短期間ではあるが、同じ目的を達成するチームとして活動できたことや、同じスケジュールの下で行動を共にできる経験の賜物であろう。

特に、今回のSCAは博多港発であったことから西日本から参加した大学が新たに加わり、過去最高の参加大学と参加者数となった。コロナ禍で制限されていたパブフェ、ダンスなどのクルーズらしさを完璧に味わえたことは、大学生活の大半をマスク着用で過ごした学生たちにとっては鮮烈な思い出となった。一方で、3年間騒ぐことを自粛させられていた学生たちは、他人の目を気にする傾向を強め、積極的に盛り上がることを恐れているようにも見えた。

次回以降の期待として、船内は外国であるという環境をうまく味方につけ、初日から主体的に学べるような仕組みづくりが必要かもしれない。Atsea日程があるクルーズを選択し、SCAの当初目標である“船上でしか味わえない”経験を深めるようなコンテンツを発案する必要がありそうだ。文責：齊藤由里恵、武者加苗

■ お世話になった皆様からのメッセージ

上村 多恵子 様 (京南倉庫 代表取締役)

第22期スマートクルーズアカデミーが、130名もの参加メンバーで、又無事に有意義に終えましたこと、うれしく感激でいっぱいです。このアカデミーは皆でつくるピラミッドです。毎回、何より参加メンバーの皆の個性でそれぞれ異なる特色で持ち盛り上がりつつゆくものです。今回も大きなピラミッドが築けまし



ショータイムも毎晩堪能

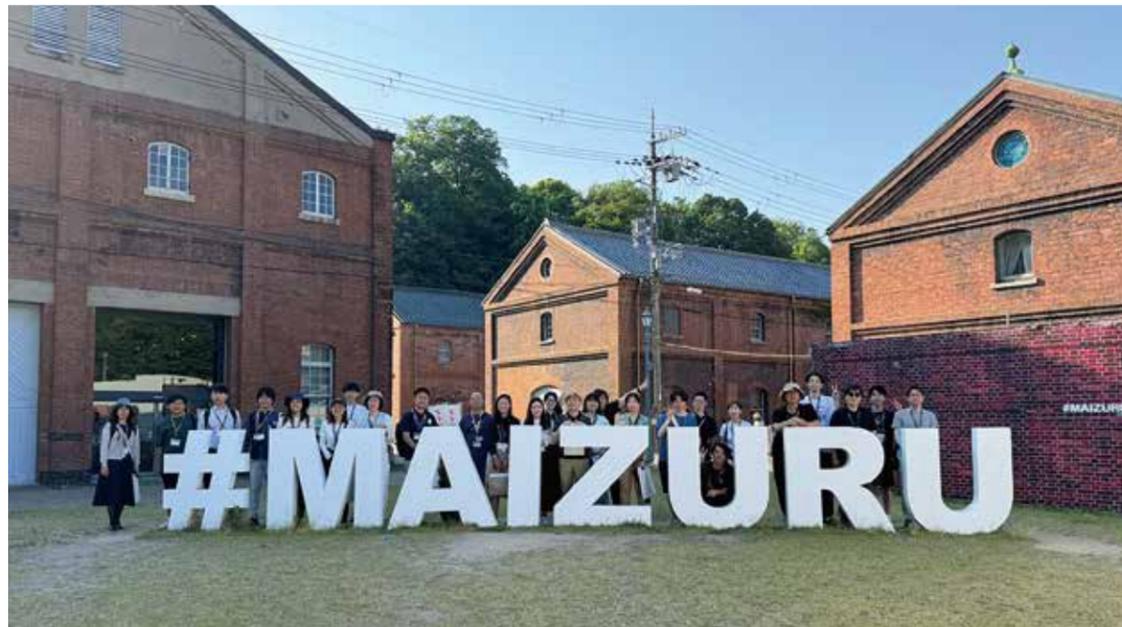
た。短時間に多くの経験や学びがあり、消化できていないこともあったかと思います。「多恵子カップ」の「手つなぎ鬼ごっこ」は、愉快的体力と知力を尽したゲームでした。このアカデミーに尽力頂いた赤井先生始め多くの先生方、旅行会社、船会社、すべての方に感謝いたします。

浜岡 聡一 様 (コスタクルーズ日本・韓国支社長)

第22回クルーズアカデミーでは、コスタクルーズに乗船いただき大変嬉しく思っております。100名を超える学生の皆様も、船内での勉強会でクルーズ関連の知識を深めるとともに、自由時間にはクルーズライフを満喫していた様子を見ることが出来ました。クルーズマーケットの成長可能性を確信するとともに、クルーズの良さをより多くの方に伝えていかなければという責任も感じたところでもあります。赤井先生及び各大学の先生方の長年にわたるご尽力に敬意を払うとともに、このクルーズアカデミーが30回・40回にむけて更に充実したものになりますことを願っております。

岡田 宏之 様 (株式会社クルーズプラネット)

日本のクルーズマーケットはまだまだ発展途上です。クルーズは、とくシニア層の旅行とイメージ偏りがちですが、これからはもっと若い方々にもクルーズ旅行を経験していただき、若い方々の目線でクルーズ啓蒙の発信力を強めてほしいと思います。そのきっかけになりうる、スマートクルーズアカデミーの意義は大変に大きく、今後のクルーズ発展の試金石となります。クルーズはとにかく乗ってみないとわからない。今後もこのような機会が、皆様と一緒にクルーズできることを楽しみにしております。



舞鶴寄港



ホワイトナイト



カーニバル・パーティー



美しい夕日と共に この様な写真もクルーズならではの

クルーズインフルエンサーとタイアップしたクルーズ振興

文責：企画スタッフ一同（スマートクルーズアカデミー）



和やかなインフルエンサー：(中央)YKKさん(右)くぼこまきさん

このたび、2024年6月に、クルーズインフルエンサーとタイアップしたクルーズ振興イベントを実施した。2024年2月、スマートクルーズアカデミーの一つの新しい展開として、人気旅行系YouTuber、Oさんとタイアップしたクルーズ振興イベントを実施したが、今回の企画は、その挑戦の第二弾である。記録も兼ねて、ここにレポートしたい。

企画の趣旨

具体的には、インフルエンサーとして、クルーズについての情報を発信しているゲストを二人招き、二人にセミナーでお話をいただくという企画である。クルーズは、非日常という言葉だけが先行し、敷居が高いというイメージが定着しており、気楽に楽しめるものであるということが浸透していない。その意味では、様々なタイプのクルーズがあり、ファミリーや若者が気楽に楽しめるクルーズがあることを知ってもらうことが重要である。多くの人とつながるインフルエンサーは、その役割を担っている。新たなこの企画は、クルーズ振興に向けた、インフルエンサーの活用の方法を考えるための挑戦であると、スマートクルーズアカデミーでは位置付けている。

ゲスト二人の紹介

今回のゲストを紹介する。一人目は、イラストを活用してクルーズの楽しさを、家族の視点で描く、「くぼこまき」さんである。すでに、クルーズに関する漫画の本を2冊発行している。本屋で手に取って、気軽に、クルーズの楽しみ方に触れることができる。しかも、漫画で描かれていることから、読みやすく、さらに、家族の視点で描かれており、まさに、今後の広がりが期待されるファミリー層へ浸透しやすい。二人目は、youtubeでクルーズの楽しみ方を発信している「YKKゆかこ」さんである。これまでもクルーズをレポートしてきたYKKさんであるが、2024年初頭に就航した世界最大のクルーズ客船「アイコンオブザシーズ」を、最速でレポートした動画は、すぐに100万回を超える再生となり、大人気のクルーズインフルエンサーとして注目されている。

この企画は、情報を発信するゲストにとっても、新たなコンテンツになりうるし、また、船社や旅行社にとっても、今後のクルー

ズ振興に向けた新しい客層を見つける機会となり、関係者一同WinWinとなる仕組みである。

企画の準備について

今回は、第22期のスマートクルーズアカデミーが6月に実施されることとなったため、その日程で同時にこの企画を行うこととした。企画の中身の調整を同時に行っていくことは時間的に大変でもあるが、スマートクルーズアカデミーの企画の調整とともに、同時に行うことができることは効率的でもあると判断した。船社や旅行社との協力調整も、スマートクルーズアカデミーの調整と同時に進めることができた。

前回の2024年2月の第一弾イベント(人気旅行系YouTuber、Oさんとタイアップしたクルーズ振興イベント)では、船内でのトークショーがメインであったが、今回は、クルーズをいまだ経験していない層にもその魅力を伝えるため、船内に加え、乗船地と下船地でもクルーズセミナーを企画することとした。乗船地は、博多港であり、その後、釜山と舞鶴をめぐる、金沢港で下船する3泊4日のクルーズである。短いクルーズで、かつ、乗船地と下船地が異なるポジショニングクルーズでもあり、値段設定は手ごろとなり、船内でのセミナーへの参加を目的としたクルーズ参加者も期待された。

新たな調整として、乗船地(博多港)および下船地(金沢港)でのクルーズセミナーが必要となる。

博多港は、福岡県が管理する港であり、金沢港は石川県が管理する港である。いずれの港も、多くのクルーズ船の寄港実績があるが、発着港(乗船または下船が行われる港)としての寄港は少ない。発着港になるためには、その港から乗船または下船する人が多くいること、すなわち、クルーズへの関心の高まりが求められる。このためには、各港でのインフルエンサーを通じた広報活動も有用である。この意味では、クルーズセミナーは、福岡県や石川県にもメリットがある。その効果を説明し、乗船日と下船日に合わせて、クルーズセミナーを実施していただくこととなった。

博多港(福岡市)・金沢港(石川県)でのクルーズセミナーの内容

港でのクルーズセミナーでは、クルーズを経験していない人に魅力を伝えることを目的として、ゲスト二人がこれまでの乗船で経験したクルーズの魅力を、たっぷり語ってもらった。くぼこまきさんからは、お得意のイラストを使って、楽に、家族全員が思い思いの楽しみ方で過ごせ、結果として家族全員が大満足となるのがクルーズであると説明していただいた。YKKさんからは、これまでの海外でのクルーズ経験から、船内で多様な楽しみ方が体験できるのがクルーズであると紹介していただいた。セミナーには、将来のクルーズに関心を持つ市民、セミナー後すぐに乗船予定のクルーズ客、さらには、両ゲストのファンもつめかけ、大盛況となり、クルーズの魅力伝えるという意義は達成された。

船内でのクルーズセミナーの工夫

船内でのクルーズセミナーはすでに何度もクルーズに乗船経験がある方も多く参加されているため、今回のクルーズセミナーの企画に賛同し参加していただいた方に特別感を味わっていただけるように、お二人のゲストの裏側をお見せする内容とした。ゲストそれぞれが、どのような体験から、クルーズに関わるようになったのかについて、苦労話も交えて話をいただいた。参加者は、実際にゲストと話もすることができ、ゲストの裏側を知る貴重な時間となったと思われる。お土産も配布され、満足していただけたと思われる。

今後に向けて

今回の3回のクルーズセミナーシリーズを終えてスタッフを感じたことをまとめることにする。準備は大変ではあったが、すべて、船の前または船内での開催であり、参加者のクルーズへの親近感がより高まる場を作れ、また、シリーズで行うことでセミナー当たりの準備コストも節約され、費用対効果の大きい企画となった。今後も、このようにセミナーを通じて、旅を好きな人が、ふとしたことから、クルーズの情報に触れ、関心を持ってくれば、クルーズの層が広がるかと期待される。

一方で、アカデミースタッフに多く見られた感想として、この効果を、今後さらに引き上げたものにするためには、さらなる要素も必要であるという点であった。

第一は、すでにクルーズを体験した人に、よりクルーズの魅力を知ってもらいリピートしてもらうための工夫である。クルーズの魅力には、一緒に乗船する人と共通の時間を過ごすことができ、それぞれ好きな時間を過ごすことができるということがある。また、クルーズを通じて、交流が生まれるということも魅力である。可能性としては、インフルエンサーを核として、交流イベントを通じてクルーズ船のなかで新たなつながりを生みだし、リピーターを広げていく仕組みづくりが考えられる。例えば、交流した10人が次回に、それぞれ知り合いを連れて乗船すれば、人数は倍になる。緩いつながりとしてのクルーズ同好会のようなものが考えられるかもしれない。

第二は、旅に強い関心がない人にクルーズを知ってもらう工

夫である。例えば、ジャパネットが会員組織を通じて新たなクルーズ客層を生み出したように、ターゲットに合わせた形でそのターゲットが日頃から触れる空間へクルーズの情報を入れ込んでいく仕組みが効果的だと思われる。そのターゲット層が、富裕層であっても、ファミリー層であっても、若年層であっても、同じである。そのターゲット層が求めるものは何か、クルーズが生み出すものがその求めに応じたものであるのかを考えてアプローチすることも重要であろう。また、そのターゲット層を見据えただけで、登録者層が多く影響力があり(登録者50万人以上)ブランドイメージの良い良質なインフルエンサーに協力してもらうことも効果的であろう。ただし、その場合は、そのインフルエンサー自体がクルーズに関心をもっていないといけない上に、費用面の問題も出てくるであろう。スマートクルーズアカデミーはボランティア組織であり、「多くのクルーズ客船が日本の津々浦々に寄港し、日本の地域を元気にする」というクルーズ振興の意義に賛同した人たちが集まって運営しており、費用面では限界もある。今後、スマートクルーズアカデミーでできることは、意義に賛同していただける協力者とともに、可能な資金の範囲で、総費用にこだわらず、費用対効果の高い取り組みを模索し、常に新たな挑戦をしることであろう。

最後に、セミナーを盛り上げていただいたお二人のゲスト、この企画を強くサポートをしていただいた、福岡市、九州運輸局、石川県、コストクルーズ社・クルーズプラネット社にも深く感謝したい。私たちスマートクルーズアカデミースタッフにとっても、やりがいのある有意義な楽しい企画でした。ありがとうございました。



インフルエンサーに引き込まれる聴衆

くぼこまきさんからの言葉

今回は3回のトークショーが行われましたが開催場所や客層がそれぞれ異なっていたため、これまで多くの講演してきた経験を活かしてそれぞれ話す内容を工夫しました。家族が楽しめるリアルなクルーズ旅行の魅力を紹介することができたと思います。クルーズに関心のある人にその魅力を伝えることはもちろんですが、私はクルーズ以外の分野でも活動しているため著作などを通して旅の選択肢の中に「クルーズ」があると伝えることで客層を広げていければと思っています。この度はありがとうございました。

YKKゆかこさんからの言葉

これまでは海外クルーズをメインに乗船してきましたが、今回は日本発着便に乗船し、普段行くことのない港にも寄港できる魅力を感じました。日本の地域を元気にすることにもつながるので、今後は日本発着便にも積極的に乗船し、クルーズの楽しさをより多くの方へ発信していきたいと思っています。また今回を機に、YouTubeでの発信に加え、リアルな場を通じてもどんどんクルーズの魅力伝えていきたいと考えています。この度はありがとうございました。